

第3章 水道ビジョンまつやま2019（水道事業経営戦略）

1 策定趣旨

本市では、21世紀半ばの本市水道のあるべき姿を描き、それを実現するための取り組みを示した「水道ビジョンまつやま2009」を2009（平成21）年3月に策定し、2009（平成21）年度からの10年間で、①安全で安心できる水の安定供給、②地震などの災害に強い水道の構築、③健全な運営基盤を維持・強化、④お客さまとの対話を大切にする水道づくり、⑤環境にやさしい水道、の5つの目標の実現に向けて、職員一丸となって取り組んできました。

一方、全国状況に目を転じると、今後の人口減少等による料金収入の減少や水道施設の老朽化による更新需要の急激な増加、東日本大震災等の経験を教訓とした災害対策の強化・推進など、水道事業を取り巻く環境が大きく変化する中で、経営状況についても厳しさが増しつつあります。

そうしたことから、厚生労働省が2013（平成25）年3月、来るべき時代に求められる課題に挑戦するため、「安全」「強靱」「持続」を水道の理想像とした『新水道ビジョン』を公表したのに続き、総務省は2014（平成26）年8月に、中長期的な視野に基づく経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図るための『経営戦略』の策定を求めています。

また、政府全体の取り組みとして、インフラの戦略的な維持管理・更新等の方向性を示す基本計画が取りまとめられる中で、2015（平成27）年3月には、厚生労働省が所管する水道施設等について「インフラ長寿命化計画（行動計画）」が示され、各水道事業者が策定する新水道ビジョンに盛り込む項目として、個別施設計画の策定・推進が追加されました。

本市水道事業でも、今後、料金収入が減少していくと見込まれる中で、近い将来、発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備えた基幹管路の耐震化、老朽化による水道施設の更新とともに、水道施設の長寿命化を計画的に進めていく必要があります。

そのためには、多額の資金が必要になることから、将来にわたって健全な経営を維持できるよう、中長期的な視点から将来の投資額とその財源確保の見通しを示さなければなりません。

そこで、現行の水道ビジョンに示した取り組みを維持しつつ、国が示した『新水道ビジョン』と『経営戦略』の内容を一体化した、『水道ビジョンまつやま2019（水道事業経営戦略）』（以下「水道ビジョンまつやま2019」）を策定いたしました。

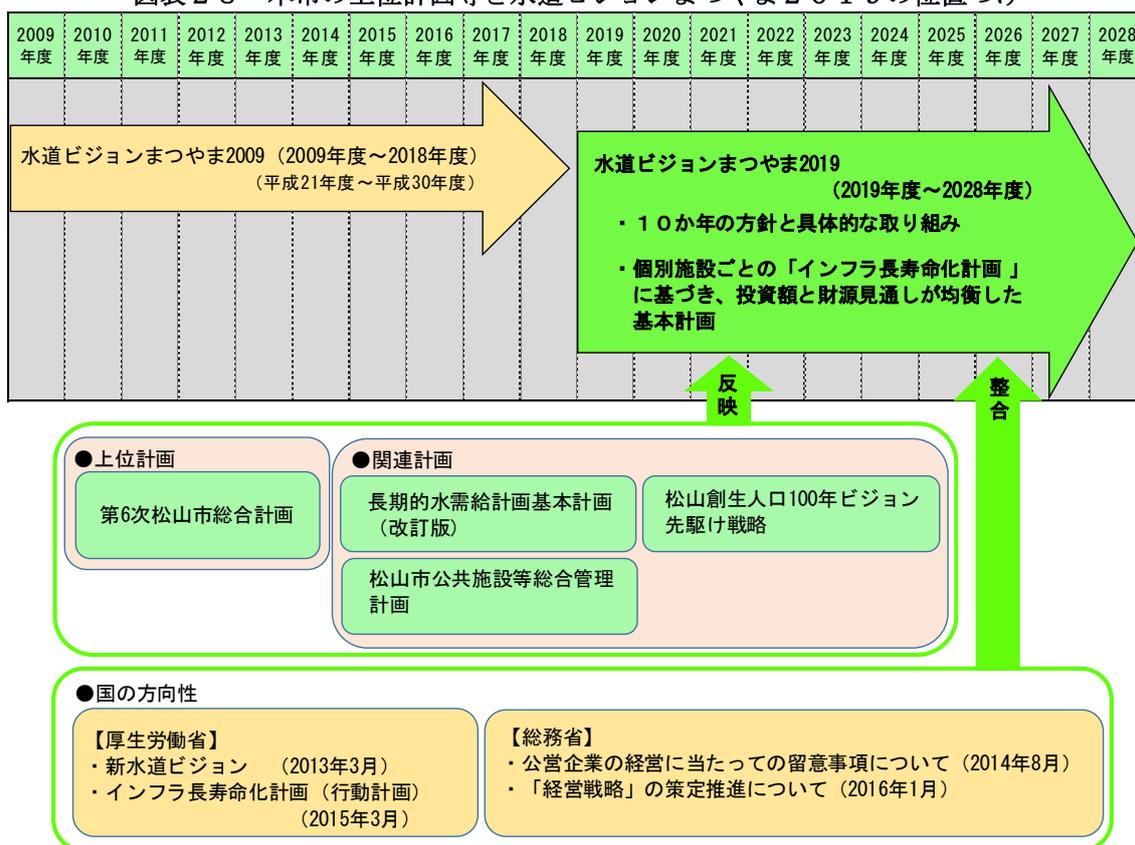
2 位置づけ

本市では、2009（平成21）年3月に「水道ビジョンまつやま2009」を策定し、将来像である「安らぎと潤い、豊かな暮らしを支える水道」の実現に向けて5つの目標を掲げ、目標ごとに施策を立てこれまで取り組んできた結果、達成度合いを表す「管理指標」の目標値は概ねクリアすることができました。

しかし、21世紀半ばにおける本市水道の将来像を実現するためには、今後も上位計画である第6次松山市総合計画をはじめ関連計画の内容を反映しつつ、水道事業をめぐる経営環境の大きな変化に対応していかなければなりません。

そこで、「水道ビジョンまつやま2019」は、今後10か年の方針と具体的な取り組みを示すとともに、個別施設ごとの「インフラ長寿命化計画」に基づき、投資額と財源見通しが均衡した経営の基本計画（水道事業経営戦略）としても位置づけ、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組めます。

図表28 本市の上位計画等と水道ビジョンまつやま2019の位置づけ



3 計画期間

「水道ビジョンまつやま2019」の計画期間は、2019年度から2028年度までの10か年とします。

4 経営の基本方針

本市水道事業は、これまでも安定した経営が行えるよう、投資に当たっては企業債への依存を抑制し自己資本構成比率を高めるとともに、料金収納業務や水道施設の運転管理業務等を外部委託するなど経営の効率化にも取り組んできました。

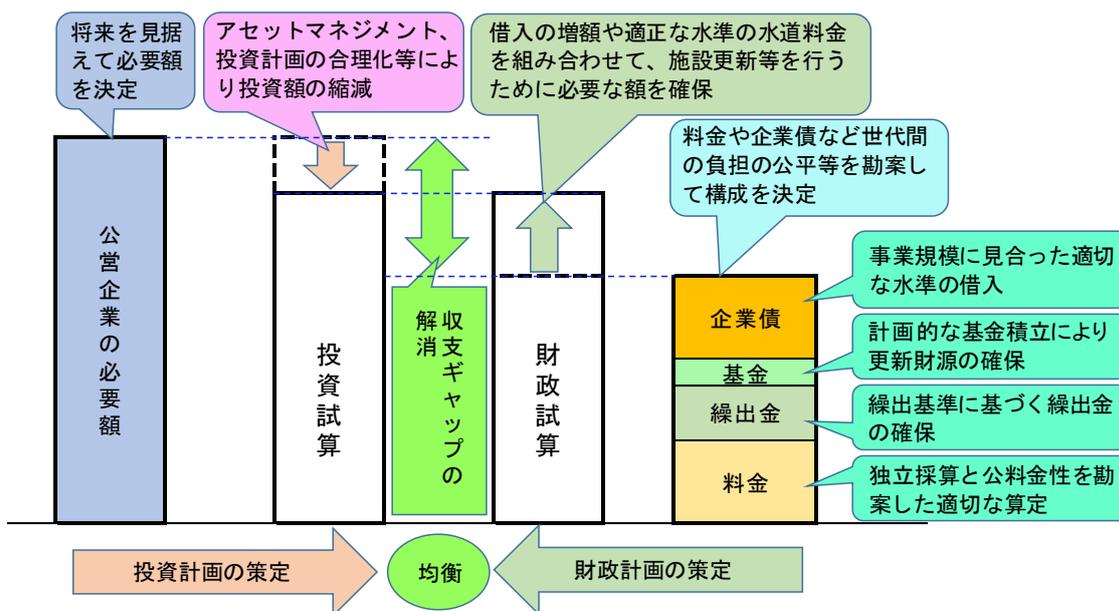
また、毎年の予算編成時に向こう5年間の財政収支計画を作成し、中期の財政状況を見通す中で、将来の基幹浄水場のリニューアルに備えた基金への積立を行うなど健全財政を維持してきました。

しかし、今後は、人口減少により事業運営の貴重な財源である料金収入が減少する一方で、巨大地震に備えた震災対策や水道施設の老朽化による更新需要が増大するなど、本市水道事業を取り巻く事業環境は厳しさを増していきます。

そうした状況下でも、安定した事業運営を継続し、将来にわたってお客さまに安全で良質な水道水を安定的に供給し続けるという使命を達成するため、事業費の平準化や施設の長寿命化など、長期的な視点に立って、計画的な改築・更新を進めながら、減少する水需要に応じた施設規模の適正化、業務の効率化によるコスト削減、上下水道部門の組織統合や広域連携にも取り組んでいきます。

そうした経営努力を行ったうえでも不足する財源については、設備投資に充てる借入の増額と適正な水準の水道料金を組み合わせることで収支の均衡を図り、これまで築き上げてきた水道を将来世代が変わらず安心して使い続けられるよう、持続可能な事業経営を行っていきます。

図表29 投資計画と財政計画を均衡させるイメージ



5 目指す将来像

将来にわたって、お客さま一人ひとりの豊かで潤いのある生活を支えていけるよう、本市の水道が目指す将来像は引き続き「安らぎと潤い、豊かな暮らしを支える水道」として、水道に求められている「公衆衛生の確保」や「ライフラインとしての役割」に加え、よりお客さまに満足していただける水道サービスの提供を目指し、今後も水道への信頼を維持・発展させていきます。

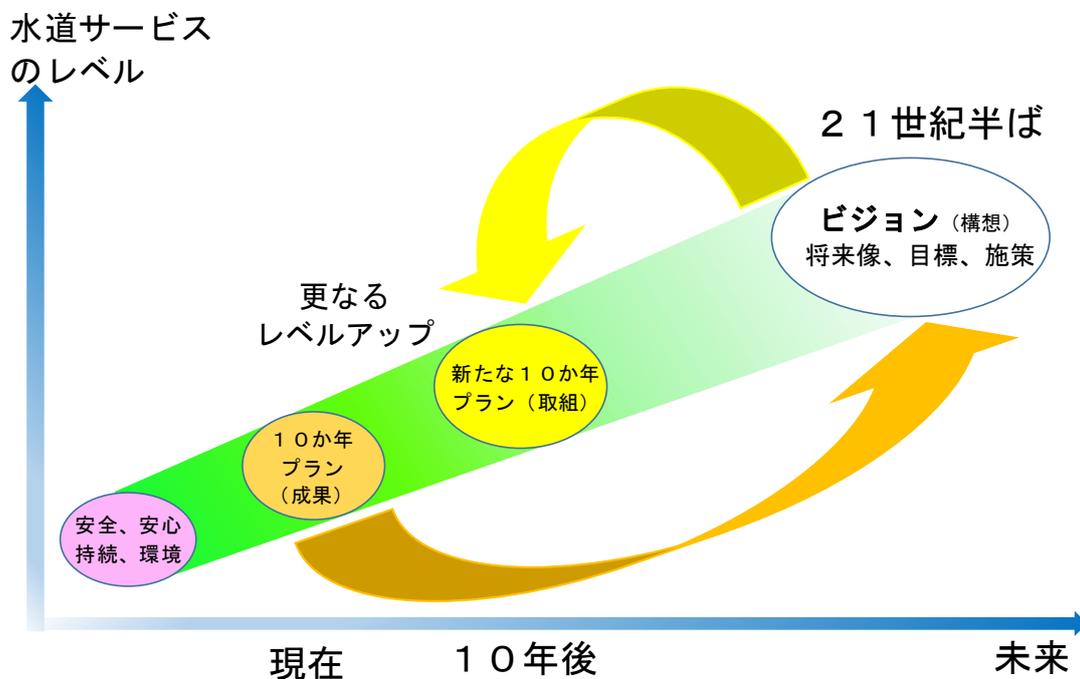


「ぽっちゃん」

松山市水道イメージキャラクター

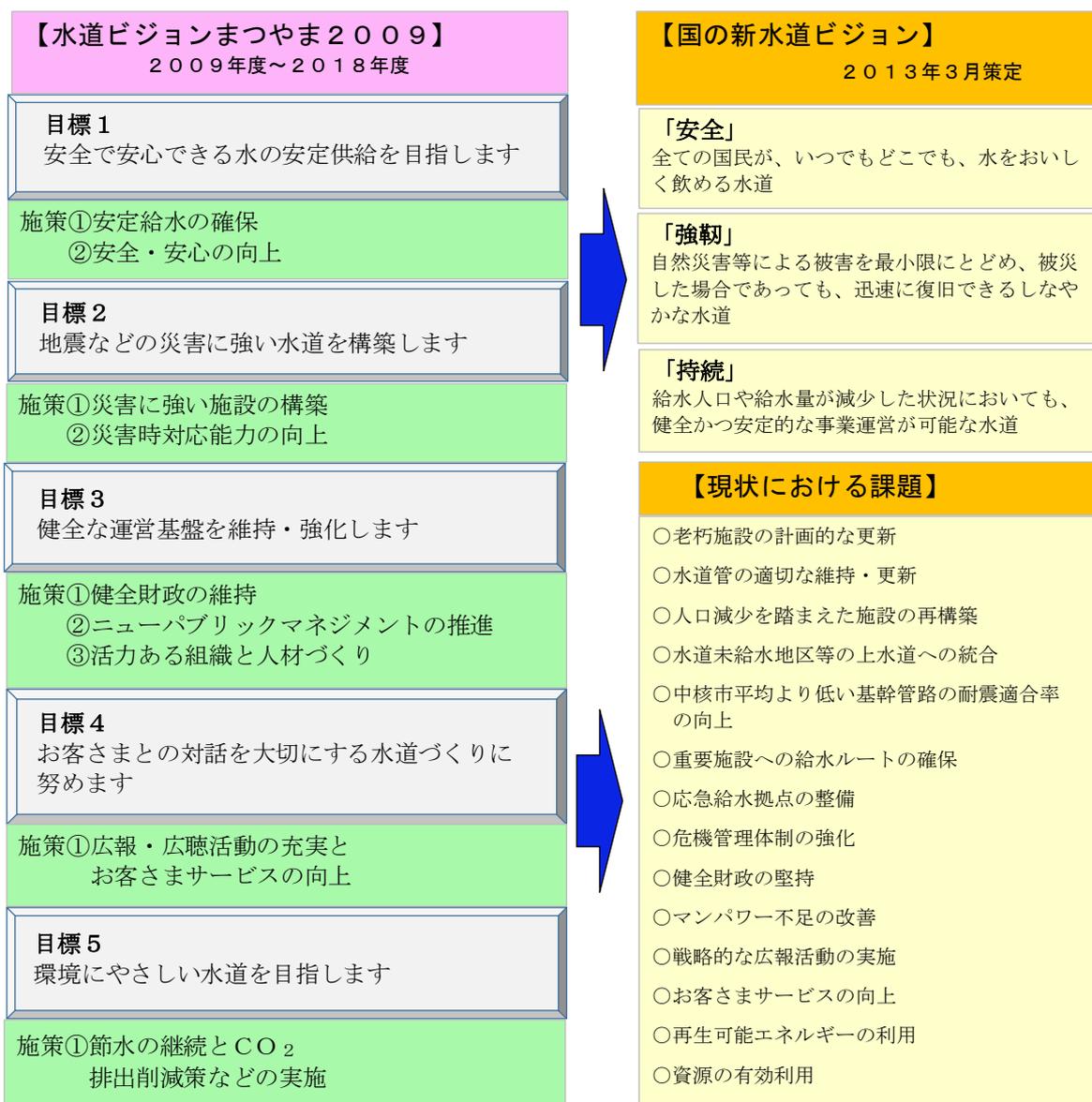
【将来像】安らぎと潤い、

豊かな暮らしを支える水道



6 将来像を実現するための目標と方針

21世紀半ばにおける本市水道の将来像を実現していくため、2009（平成21）年度からの取り組みを検証、評価したうえで、人口減少や更新需要の増大などの経営環境の変化や、2013（平成25）年3月に国が示した『新水道ビジョン』が目指す方向性などを踏まえ、『水道ビジョンまつやま2019』では「安全」「強靱」「持続」の3つを柱として定め、目標を達成するための7つの方針のもと施策を推進していきます。



【水道ビジョンまつやま2019】

2019年度～2028年度

安全

目標1
安全で安心できる水の
安定供給に努めます

【効果】

○いつでも水道水を安定して供給
することができます。

○いつでも安心して、安全でおい
しい水道水を飲んでいただけま
す。

方針

- ①安定給水の確保
- ②安全・安心の維持・向上

**強
靱**

目標2
地震などの災害に強い
水道を構築します

【効果】

○地震などの災害時でも、飲料用
だけでなく、命を守るさまざま
な活動に必要な水道水を確保し
ます。

○被災後の迅速な水道施設の復旧
活動につながります。

方針

- ③災害に強い施設の構築
- ④災害時対応能力の向上

**持
続**

目標3
安定した経営基盤を
将来へ引き継ぎます

【効果】

○将来にわたり持続可能な経営基
盤を引き継いでいくことができ
ます。

○お客さまのニーズに応えたサー
ビスを提供します。

○限られた資源を有効に活用する
ことで環境への負荷を軽減しま
す。

方針

- ⑤健全な経営基盤の維持
- ⑥お客さまとの対話を大切
にする水道づくり
- ⑦環境にやさしい水道づくり

目標 1 安全で安心できる水の安定供給に努めます

これまで積み上げてきた水道への信頼を今後も維持・発展させていくためには、老朽化が進む水道施設の更新を着実に進めるとともに、水質管理体制も充実していかなければなりません。

そこで、水道管の約9割を占める配水支管について優先度と重要度を考慮したうえで計画的に更新するとともに、水道施設の設備・機器等については予防保全の考え方に基づき長寿命化を図ったうえで更新していくことで、安定給水を確保します。

また、安全で良質な水道水をお客さまにお届けするため、水質検査計画と水安全計画に基づき今後も水道水質を適正に管理するとともに、水道G L P（水道水質検査優良試験所規範）の認定更新を継続しお客さまの信頼や安心感につなげていくことで、安全で安心できる水の安定供給に努めます。

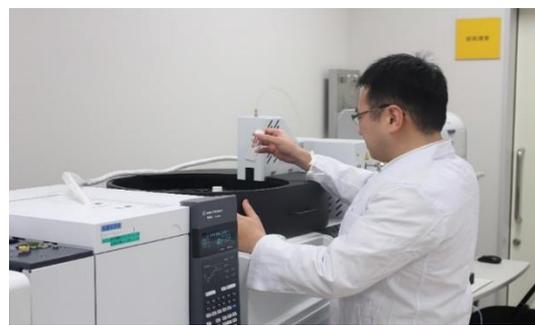
- 方針 ①安定給水の確保
②安全・安心の維持・向上



(老朽化した配水支管の更新)



(地下漏水の調査)



(水質管理棟での水質検査の実施)

目標 2 地震などの災害に強い水道を構築します

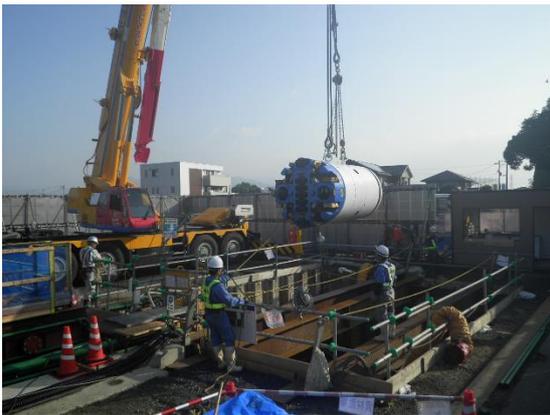
水道は市民生活や都市活動に欠くことのできないライフラインであり、特に災害等の緊急時には飲料用のほか、市民の生命や財産を守る医療活動や消防活動にとって極めて重要です。

そこで、近い将来、発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備え、これまで優先的に進めてきた浄水場と配水池の耐震化に続き、基幹管路の耐震化を重点的に進めるとともに、救護所等の重要施設への給水ルートの確保や給水区域内の指定避難所である小・中学校への応急給水栓の設置を進めます。

また、災害時に効果的な対応ができるよう体制の充実を図るとともに、民間事業者や地域住民と連携した災害時対応訓練を実施するなど対応能力を向上させることで、地震などの災害に強い水道を構築します。

方針 ③災害に強い施設の構築

④災害時対応能力の向上



(基幹管路の耐震化)



(応急給水栓の設置)



(給水車からの応急給水訓練)

目標3 安定した経営基盤を将来へ引き継ぎます

これまで築き上げてきた水道を将来世代へ確実に引き継いでいくためには、人口減少等による料金収入の減少、老朽化や耐震化に伴う設備投資の増加、熟練技術職員の減少といった直面する課題を克服していく経営基盤を維持する必要があります。

そこで、長期的な人口減少を見据えた設備投資や業務の効率化等によるコスト削減などの経営努力を行うとともに、適正な水道料金のあり方について検討するほか、上下水道部門の組織統合による経営合理化、技術の継承と人材育成、広域連携を進めることで、健全な経営基盤を維持します。

また、広報・広聴活動を通じてお客さまの声をしっかり聴き、お客さまニーズに応えたサービスの向上を目指すほか、節水型都市づくりや温暖化対策の推進により環境にやさしい水道づくりにも努めるなど、持続可能な事業運営を行うことで安定した経営基盤を将来へ引き継ぎます。

- 方針 ⑤健全な経営基盤の維持
- ⑥お客さまとの対話を大切にする水道づくり
- ⑦環境にやさしい水道づくり



(市之井手浄水場の運転管理業務)



(水道モニター懇談会)



(水道メーター検針業務)



(小学4年生を対象にした出前水道教室)